

第三者からのご意見



2017年度に引き続き、上智大学 名誉教授の上妻義直氏に 本レポートに対するご意見を伺いました。

上智大学 名誉教授
上妻 義直 氏

上智大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後、名古屋工業大学助手、オランダ・リンパーク研究所客員研究員、静岡県立大学助教授、上智大学経済学部助教授、上智大学経済学部教授を経て現在に至る。環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省、内閣府、日本公認会計士協会などのCSR・環境関係の審議会、検討会・研究会等で座長・委員等を歴任。専門は環境会計論。環境省の「環境報告ガイドライン2018年版 解説書等作成に向けた検討会」委員長、主著に『CO₂を見える化するカーボンラベル』（中央経済社刊）等がある。

1. CSRマネジメントのグローバル化

地域別売上高・従業員数の3分の2を海外に依存するビジネス実態を考慮すれば、CSRマネジメントにもグローバル化が必要なことは明らかですが、それを着実に進行させている様子が今年度のCSRレポートからよく伝わってきます。たとえば、「NSKビジョン2026」の浸透活動として世界各国で開催されたファシリテーター育成のためのワークショップ、グローバル経営大学に象徴される多文化を受容するグループ風土の形成、管理基準・管理規定の大幅改定による情報セキュリティ体制のグローバル展開、次期中期経営計画への組み込みを模索するSDGs目標など、事業活動とCSRマネジメントをグローバル水準で一体化する施策が多数見られます。いずれも今後の進展が期待される取り組みばかりです。

2. グループ税務方針の策定

グローバル企業にとって重要なESG課題のひとつは海外拠点における地域コミュニティ問題です。とくに移転価格の不適切な設定による課税回避は、タックスヘイブンの利用と相まって、地域経済に大きなダメージを与えるおそれがあり、地域の貧困を助長する原因にもなっています。NSKグループでは、NSKグループ税務方針を策定して、この問題に正面から取り組んでいます。方針策定が節税目的ではなく、経済活動によって価値創造した場所での適正な納税を目指す点できわめて優れています。そうした方向性を積極的に志向するNSKグループの経営姿勢を高く評価します。

3. 第三者保証の範囲拡大

昨年度に引き続き、今年度も第三者保証の範囲拡大が行われており、開示情報の信頼性確保に向けた取り組み強化が継続されていま

す。とりわけ、温室効果ガスのスコープ3排出量が保証範囲に含まれたことは、現在進行中の製品使用時における削減貢献量の算定基準作りと併せて、CSRマネジメントのバリューチェーン拡大を強く印象付けるものであり、保証実務としても先進的な取り組みになっています。

4. 健康マネジメントの外部評価

DJSIやFTSE4Goodのような持続性を評価基準とする外部格付に加えて、今年度はNSKの健康マネジメントが評価され、経済産業省の健康経営優良法人認定制度である「健康経営優良法人2018～ホワイト500～」の大規模法人部門に認定されました。NSKでは健康マネジメントに関する基本方針と推進体制が確立されていますが、今後はこれをグループ各社にも広げて、グループ規模での健康マネジメント促進を目指していただきたいと思います。

5. 今後の課題

環境マネジメントの目標・実績管理において、いくつかの指標が数年連続して目標未達になっており、その数は増加傾向にあります。その中には、原因の確認と再発防止策の実施によって現在は改善が完了している旨の記述が経年的に記載されているものもあり、現状と矛盾した説明になっています。また、働き方改革において、一人あたりの総労働時間の推移が開示されていますが、改革の具体的な方向性や目標が不明なので、実態の評価が困難です。これも今後の改善が望まれる事項です。

ご意見をいただいて

執行役 CSR本部長 村田 珠美

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。当社のCSR活動へのご評価やご指摘をいただくことは、今後の活動の強化に向けて大変励みになります。本年度のCSRレポートの制作にあたっては、NSKレポート（統合報告書）でご説明しているNSKの中長期的な価値創造のための取り組みを、具体的な活動事例や詳細なデータに基づいて深掘りしていくことを念頭に、グローバルレベルで、より幅広い取り組みやデータを開示できるように努めました。「CSRマネジメントのグローバル化」や「グループ税務方針の策定」「第三者保証の範囲拡大」などの点についてご評価をいただきましたこと、感謝申し上げます。また、ご指摘をいただきました、環境目標の未達や労働時間に関する改革の方向性の設定等につきましては、真摯に受け止め、今後の活動強化に活かしてまいります。

